

Tom's



特集

どつどつ過ぎず? 富大ライフ

◎先輩インタビュー

「8人8様の富大ライフ」

◎学び・生活・健康・課外活動

「充実の学生支援」

◎一人ひとりの就職と向き合う

「富大流・キャリアサポート」

特集

どう過ごす? 富大ライフ

有意義な「富大ライフ」を過ごすポイントとは? 高い志をもって、人生の大切な時間を過ごした先輩たちのストーリーとメッセージから、富山大学が学生とともにきめ細かく取り組む、教育、学術研究、課外活動、就職活動、学生支援の今が見えてくる!

先輩インタビュー「8人8様の富大ライフ」

My Story & Message

人文学部心理学コース 卒業 松浦昂平さん

◎大学生活を振り返って
友人と乗り切った
大量のレポート!

私は社会心理学を専攻し、「同じ行動をする他者が存在することで課題の遂行量が増加する」という社会的促進について研究していました。

2年次からはレポートに追われる日々が続き、パソコン室で何度徹夜作業をしたことか。一人ではつらい状況を、友人と議論することで、楽しく乗り切ることができました。

卒業以外では二つのアルバイトを4年間掛け持ちしました。学業との両立は大変でしたが、アルバイトは社会を知るための貴重な経験になりました。

◎大学生活で学んだこと
固定観念に捉われず
疑問を持って対処

論文を読むことや研究・実験を通じて、問題(目的)の捉え方、表現力(他者に判りやすく伝える能力、解決力(具体的な問題点の発見、解決策を導く能力)を養うことができました。これらの基礎能力は何をするにも必要です。自分の行動に目的意識を持つことができるようになりました。

◎大学生活を振り返って
授業やサークル活動、アルバイトなどのスケジュールは余裕を持って設定すること、無理は禁物です。後悔しないように進路を早めに決め、勉強に励むことです。



人間発達科学部人間環境システム学科 卒業 森田 圭さん

ことができ、社会で役立つスキルを身につけることができました。

◎大学生活で学んだこと
仲間の励ましを力に
地元市役所に合格

映像編集や音楽制作、インターネットのコンテンツ制作など、マルチメディアについて学びました。座学だけではなく、実際に制作を通して技術を学ぶ

学業や演劇サークル、アルバイトやボランティアなどを通じて視野が広がりました。2年次に公務員を目指すこと決め、3年次から生協の主催する公務員試験対策講座を受講しました。大学受験のような試験勉強に明け暮れる日々を1年余り続け、地元市役所に合格することができました。勉強に疲れたときや行きつまった時に力になってくれたのが友人や仲間でした。

経済学部経営学科 卒業 勝見 裕さん

◎大学生活を振り返って
国内外での研究発表を経験

私は経営戦略論を専攻。3年次にはゼミナールでグループ研究を行いました。企業へのアンケート調査やインタビューを行ない、約半年をかけて一つの論文を完成させました。その成果を首都圏の大学やマレーシアの大学で発表。発表した際に、論文の質の高さやグループのチームワークの良さを評価された時は、嬉しくて仲間と涙ぐんでしまいました。

このグループ研究ではリーダーを務めました。メンバー全員が情報を共有できる仕組みを作ったことで一致団

結して研究に取り組むことができ、大きな評価につながったと思っています。

◎大学生活で学んだこと
「挑戦」と「成長」

就職活動に関するイベントを運営する実行委員長に就任。400人以上という過去最大の動員人数を記録したことです。イベントでは就職活動を題材にした漫画を描いている漫画家を招くことに成功。学生たちから大きな反響を得ました。ここで、失敗を活かしてチャレンジし、一步一步成長することを学びました。



芸術文化学部デザイン工芸コース 卒業 松原千明さん

◎大学生活を振り返って
海外留学、学外活動で
貴重な体験

伝統工芸技法を用いたプロダクト製品を中心に、デザイン・制作を学びました。富大の魅力は地域と連携した産学協同イベントや商品開発などのプロジェクトで、学外の人々と交流し、いろいろな経験を積むことができることです。学外プロジェクトに積極的に参加し、学校では得られない貴重な経験をしました。

交換留学制度を利用して、フィンランドの大学に1年間留学しました。留学中は、異文化の中で異素材を組み合

◎大学生活で学んだこと
語学力とコミュニケーション

せたデザイン・制作を学びました。卒業制作では、留学時に学んだことをもとに屋外用のテーブルとイスを制作しました。

先輩からのアドバイス
サークルに参加し、積極的に多くの人と交流すべき。他大学や社会人との交流も良い刺激になります。就職活動には「キャリアサポートセンター」を活用してください。本当に便利です。



医学部医学科 卒業 西村 歩さん

◎大学生活を振り返って
実習、医師国家試験…
友と支え合った大学生活

入学理由の一つは実家から近かったから。緑豊かなキャンパスで、6年間、医師として必要な基礎・臨床の知識を多くの先生方から教えていただきました。困難なことがたくさんありましたが、特に大変だったのは解剖学実習と医師国家試験。同級生と協力し、励まし合いながら乗り越えました。先輩方のアドバイスも大きな支えになりました。

飲食店での接客のアルバイトは、自分と違う価値観を持った方と出会う良い機会になりました。

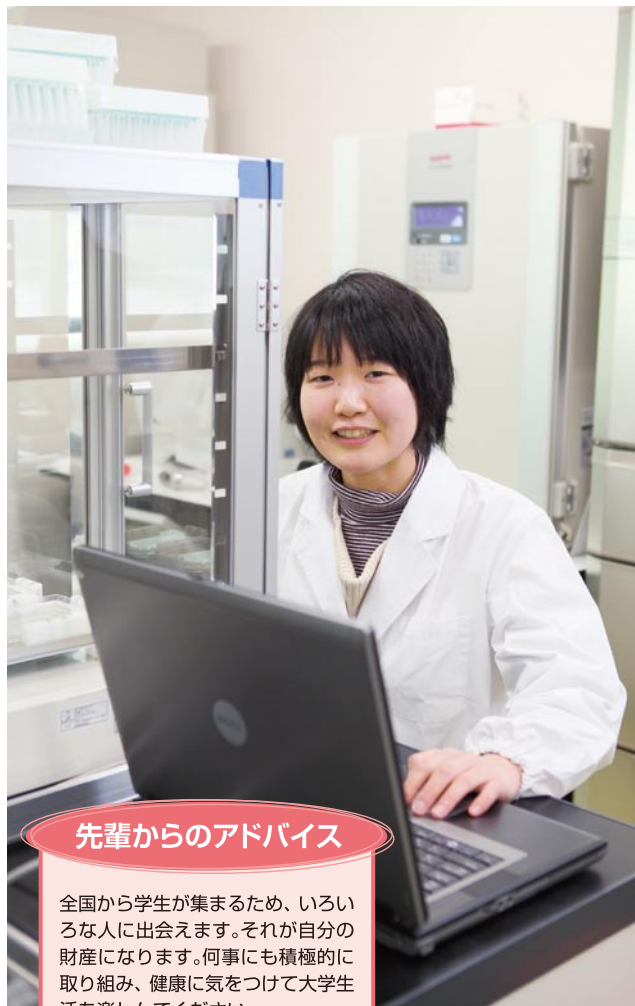
◎大学生活で学んだこと
医師という仕事とその使命

2年次に解剖学実習、5年次に病院実習を行いました。解剖学実習では人体を実際に目にしてその仕組みに感動しました。病院実習では患者さんに接し、医師の仕事の実際を見て、将来の目標がはっきりしました。お産に立ち会った時は本当に感動。人の命を預かる医師の存在に、強い使命感と責任を感じるようになりました。



先輩からのアドバイス

充実したパソコン設備や豊富な図書を大いに利用し勉強してほしいです。様々な活動に参加し、たくさんの友だちを作り、充実した学生生活を過ごしてください。



先輩からのアドバイス

全国から学生が集まるため、いろいろな人に出会えます。それが自分の財産になります。何事にも積極的に取り組み、健康に気をつけて大学生生活を楽しんでください。

工学部物質生命システム工学科 卒業 大学院生命融合科学教育部 在学 吉岡めぐみさん

◎大学生活を振り返って
富大で見つけた
将来の目標と夢

子どもの頃から生物に興味がありました。工学部にも生物分野の学科があったこと、小学生の頃に富山に住んでいたので、「一人暮らしをするなら富山で」と思って入学しました。

在学中は最先端の遺伝子組換え技術や細胞の扱い方について学びました。それらの技術を応用して抗体医薬品の開発に結びつく、単一細胞からの世界最速・最効率の抗体作製法の開発に携わりました。学部時代に漠然としてい

た目標や夢が研究室に入っってはっきりと見えてきました。大学院に進学したのも興味を持ったこの分野の研究を続けたい、新技術を開発したいとの思いからです。

◎大学生活で学んだこと

投げ出さず挑戦し続けること

基礎スキー部で本格的にスキーを始めました。練習を重ねスキー検定の2級を取得しました。シーズンに備えて夏場は厳しいトレーニングを行なうなど、つらいことも多々ありましたが、「投げ出さず挑戦し続けることが大切だ」と学びました。



先輩からのアドバイス

学生生活は自由です。何もしないで終わってしまうこともできます。しかし、興味ある分野に進学したからには気がすむまで学び、のめり込めたら良いと思います。

薬学部創薬科学科 卒業 大学院薬学教育部 在学 深澤力也さん

◎大学生活を振り返って
自分の認識と違った、
薬学の世界

入学してからは薬学についての認識が大きく変わりました。創薬科学科では薬を創るということを学ぶのですが、それには様々なアプローチがあることを知り、驚くと同時に薬の凄さ、その奥深さを再認識しました。

サークルではサッカー部に所属し、キャプテンを務めました。成績も残したいとの思いで奮闘。「頭を使ってサッカーをした」思い出です。

また、週に1冊のペースで本を読破。知らない分野にも興味が広がっています。

◎大学生活で学んだこと
研究の奥深さと厳しさ

大学院に進学したのは、薬学部に入学した時から研究生活を続けよう決めていたからです。

学業や研究はやればやるだけ成果が出ると思っていました。思うような結果が出ない、自分の常識が通用しないなど、研究の奥深さと厳しさを学びました。

理学部物理学科 卒業 大学院理工学教育部 修了 柳生 慶さん

◎大学生活を振り返って
恵まれた自然環境と
学ぶ環境

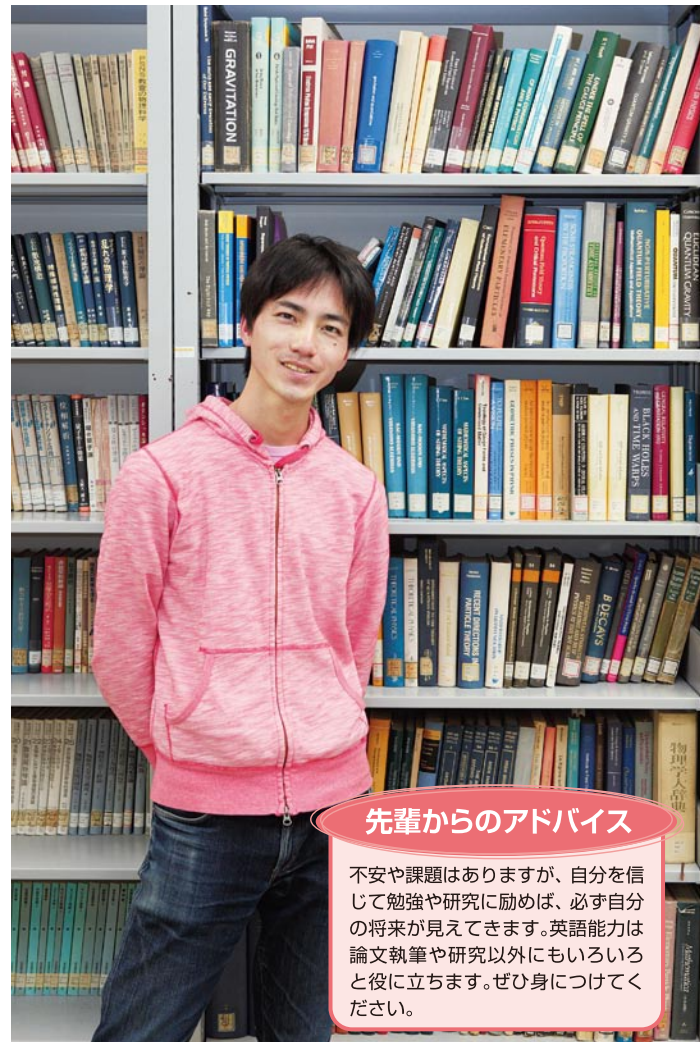
富大を選んだのは山や川、海などの自然環境に恵まれていたから。富大に来て、まさにそのことを実感しました。

富山県のシンボルである立山や剣岳登山にも挑戦。映画や本で「登頂が大変困難だ」といわれる剣岳に登った時は、その険しさを実感しました。山頂に立った時の達成感や風景は最高でした。

図書館や各学部棟などキャンパス内

◎大学生活で学んだこと
研究発表の難しさと喜び

積極的に研究会や学会に参加。スペインでは英語でプレゼンテーションしました。大勢の研究者の前で自分の研究内容や考えをプレゼンするのは、事前準備や練習が必要でした。教科書や論文でよく目にする著名な研究者と会って話げできたことは忘れられない貴重な経験です。



先輩からのアドバイス

不安や課題はありますが、自分を信じて勉強や研究に励めば、必ず自分の将来が見えてきます。英語能力は論文執筆や研究以外にもいろいろと役に立ちます。ぜひ身につけてください。

学び・生活・健康・課外活動「充実の学生支援」

キャンパスには毎日の「富大ライフ」をやさしく、力強く応援してくれる施設が充実。上手に活用して学生生活を思い切り楽しもう。

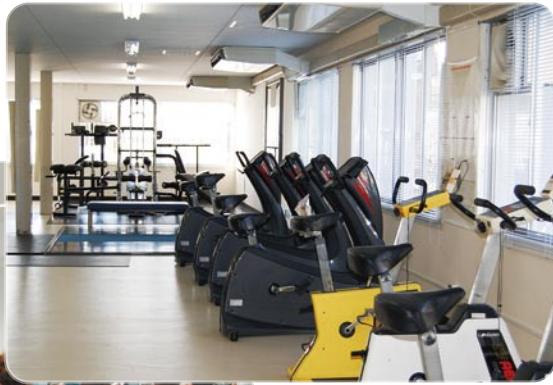
① 学生会館ラウンジ
ランチを食べたり、談話したり、勉強したり。みんなの憩いの場所です。



② 体育館



③ トレーニングルーム
(第2体育館内)



④ 総合情報基盤センター

大学における高度な情報活動を支援、安全で快適なネットワーク利用環境を提供、学生や教職員の研究や教育環境を支援しています。各キャンパスにも端末室があり、学生が利用できるようになっています。



⑤ 保健管理センター
医師・看護師・臨床心理士(カウンセラー)が常駐。毎年春の定期健康診断、応急処置、健康相談のほか、心理カウンセリングも行なっています。



五福キャンパス

学生生活で困った時、悩んだ時、心身の健康をサポートします!

■ 学生なんでも相談窓口

人間関係、勉強や進路、生活のいろいろなトラブルなど、専門スタッフがあらゆる相談にのってくれます。どこに相談したらいいかわからない時はまずこへ。電話やメールでの相談、出張相談なども行っています。

■ アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

さまざまな障害や特性をもつ学生の大学生活をサポートするため、面接などの支援を行なっています。全学生を対象にしたコミュニケーションサポートや、コミュニティサイト「富山大学PSNS」も運営しています。

⑥ キャンパスコンビニ
チュウリツ
パンや飲み物、お弁当やお菓子が揃っています。



⑦ カフェアザミ

正門左手のオープンカフェ。パスタセツトが人気。大きなガラスが開放感を演出しています。



⑧ 生協食堂

好きなメニューを自由に選べるカフェテリア方式です。



⑨ サークル棟

いろいろなサークルの部室が並んでいます。授業後は学生で賑わいます。



高岡キャンパス



3 掲示板



1 保健管理センター



2 テニスコート



学生なんでも相談窓口

成績証明書や学割証など、各種証明書をその場で発行できます。

5 証明書自動発行機



4 エントランスホール

芸術文化学部の学生たちが制作した作品発表の場としても活用されます。

6 コミュニケーションセンター

お洒落なアート空間。学生や教職員の交流の場です。



富山大学キャンパスレポート「Tom's TV」

富山大学の研究室を紹介するテレビ番組です。毎月第一日曜日に放送しています。

*過去の放送は YouTube 富山大学チャンネルでチェック! <http://www.youtube.com/user/tomidaimovie>



2 武道場・弓道場

柔道や剣道、弓道など武道の技術と精神を磨くための本格的な練習・競技施設。



Photo: 薬学部パンフレット 2011 からの転載

5 陸上競技場・野球場



6 看護学科ラウンジ

看護学科研究棟 3 階にあります。ゆったり寛げるスペース。見晴らし抜群です。



1 医薬学図書館

約 22 万冊の医薬学に関する図書、資料を所蔵。学生は 365 日 24 時間利用ができます。パソコンの利用環境も充実した施設です。

杉谷キャンパスの図書館は24時間使えます。パソコンの設備や専門書が充実しています。



4 保健管理センター



3 附属病院内
コーヒESHOP

附属病院への来院者の憩いのスペースとなっています。



学生なんでも相談窓口

杉谷キャンパス

一人ひとりの就職と向き合う「富大流・キャリアサポート」
就職に関することならおまかせ。夢も悩みもしっかり受け止めてくれる、キャリアデザインの応援団!



キャリアサポートセンター
五十嵐 コーディネーター

自分の得意分野や
適職を知ること

大学生の就職内定率は低迷。富大においても例外ではなく、早い年次から就職先を模索する様子が見られます。キャリアサポートセンター発行の「就職の手引き」のスケジュールに沿って就職活動を行いますが、仕事内容も分らないまま、憧れや興味だけでエントリーする学生がいます。確かに就職活動で興味は重要ですが、それだけでは上手くいきません。最近はインターンシップやOB訪問などで、ウェブサイトや印刷物ではわからない企業の実情を経験する学生が増えています。応募書類で「体験を伴った情報を書くことが大切」と言われているからでしょう。



積極的に人柄・人物を磨こう
勉強以外の「趣味・特技・社会参加活動」など、独自の得意分野を作っておくといいと思います。得意分野を持っている人はストレスや困難への対処などもうまいし、「人柄・人物像」が見えやすいです。企業側も人柄を知ることのできる要件を重要視しています。1〜2年次には幅広い年代のひととの交流を心がけ、ネットワークの構築に努めてほしいと思います。就職活動の第一歩はセンター主催のガイダンスに参加することから。皆さんの就職活動をしっかりサポートします。



キャリアサポートセンター
高井 コーディネーター

職業選択の幅は柔軟に

学生たちの多くは、いわゆるbusiness to Customerに代表された個人顧客を相手とした有名人気企業や公務員に対して憧れ意識を持っています。それ以外にもな部分もありますが、実際には現実感が希薄なため、就職活動を行って



初めて採用人数が絞りこまれていたりや外国人採用増の現実を知りませう。ぜひ優良な中堅企業にも目を向けてほしいと思います。
また、仕事をするということは毎日が目立たない地道な努力の積み重ねですが、学生には入社後の現実の姿や社会の厳しさはなかなか理解されていないと感じます。

充実した学生生活は
生涯の財産

卒業後、社会への一歩を踏み出す時に問われるのは、「あなたがどういう学生生活を過ごしてきたか」ということです。学生に今一番大切にしたいのは、大学でしかできないことを真摯に見つめることです。大学は人生の中でも思う存分に試行錯誤ができるかけがえない場なのです。卒業後の人生を考えると、大学ですべきことや過ごした方も覚えてくるのです。ぜひ自分づくりを大切にしてください。

富大発!

学生による学生のための就活支援

経済学部

按田悠李さん

体当たりの就活で
見事内定をつかむ



自己分析や適職診断からも営業職向き。業界にこだわらず、人と関わり喜んでもらえる仕事がしたいと思っています。また、違う環境で自分を思いっきり試してみたいと東京での就職を希望。親戚宅を拠点に朝昼晩と1日2〜3社、企業の説明会に参加しました。東京滞在中はフェイスブックで全国から就活にきている学生に呼びかけ、交流会を開催。これまでつながりのなかった就活生同士の輪が広がり、情報交換するなど有意義な会となりました。

就活を支える
学生サポーター

「就活生の仲間を作る」という要望が学生から出てきたことで、学生が学生を支援するキャリアサポーターが誕生。3年次の5月からリーダーとして活動しています。現在11名のメンバーは、就活生が知りたい情報を掲載した「富大就活日記」の企画編集や、先輩



ガイダンスでは司会を担当



便利グッズまで掲載した「富大就活日記」は学生たちの経験からの情報が満載

とのパネルディスカッションや企業への質問コーナーを盛り込んだガイダンスの主催などで奮闘。250名が参加し、会場がいっぱいになった時は手応えを感じました!
サポーター募集! 皆さんも仲間になりませんか!! キャリアサポートセンター内の活動室でお待ちしています。

Check Point!

チェックポイント!

◎キャリアサポートセンター

就職支援室、インターンシップ支援室、富大流人生設計支援室の3つで構成。学務部就職支援グループと一体となってキャリア・就職支援に取り組んでいる。学生会館の2階にあり、学生たちへの就職支援の核となる施設。



キャリアサポートセンター 就職情報コーナー

◎学内情報ネットワーク「ヘルンシステム」

就職活動に直接関係する求人情報、会社説明会情報、公務員採用試験情報など、就職に関する様々な情報を学内情報ネットワーク「ヘルンシステム」で発信。また、学生たちは進学希望や就職活動などの記録が入力できるようになっている。大学は学生たちの活動報告に基づき対応する。

◎就職ガイダンス、就活プログラム

3年次の6月頃から開催される。学生は就職支援室が提供するツールを使って、自己分析や適職診断を行ない、自分が目指す業界や企業研究を開始する。就活のプログラムでは、「就活の手引き」に掲載されているスケジュールに基づいて、インターンシップ、業界・企業セミナーなどが実施される。

◎富大流人生設計支援プログラム

キャリアサポートセンターでは、入学時から大学生活全体を通して、自分自身の将来について考えを深めることができるように「富大流人生設計ノート」を配布しています。また、キャリアガイダンスや職場訪問研修など低学年から様々なキャリア支援プログラムを提供しています。

◎就職活動支援バスを運行

関東、中部、関西地区で開催される首都圏での合同企業説明会への就職活動支援バスを運行。業界・企業研究の期間が短くなったことから、少しでも多くの企業を知る機会を増やすために昨年から始めた。県外での就職を希望する学生が利用。バスが説明会会場まで直接乗り入れることにより就職活動経費の負担軽減にもなり、学生には大変好評を得た。

大学院理工学研究部（理学）
講師
山本将之
やまもと・まさゆき

植物の遺伝子を解析し品種改良に活かす



ゴマが秘める多様な成分を解析し、機能性の高い品種づくりへ

出身は静岡県。北海道大学に進学が決まった時、「北海道大学といえば、やはり有名な『農学部』へ」という思いから農学部農学科を選択。農作物の品種改良を行う育種学を専攻し、北海道でしか作られていない寒冷地作物のサトウダイコンの研究に取り組んだ。

富山大学では植物分子遺伝学を専門に研究しており、中でもゴマの分子育種、ゴマ属植物の遺伝解析を行なっている。

な作物だが、日本で栽培されているものは1%にも満たず、輸入に頼っているのが現状だ。ゴマは熱帯の作物で、産地はナイジェリア、ミャンマー、パラグアイなど。日本でも青森あたりを北限に栽培することが可能だが、採算性の面で厳しいため、現在では栽培されている地域は限られているという。

世界屈指のゴマ属植物コレクシヨン

山本講師の研究室では日本や外国の栽培種、野生ゴマなどを含む1000系統以上のゴマ属植物（ゴマ遺伝資源）を保存。世界屈指のコレクシヨンである。ゴマは種子中に多量の良質な油脂に加えて、セサミンやセサモリン、セサミノール等のリグナンなど、機能性成分が豊富に含まれている健康機能性の高い植物だ。研究室ではこれらゴマ属植物を材料に分子生物学的手法や遺伝学的手法を用いて、生合成に関わる遺伝子の発現や機能性成分の高蓄積の分子メカニズムの解明に取り組んでいる。

農作物はさまざまな特性を示す品種や系統を交雑することにより品種改良されている。例えば、おいしい品種と



ゴマの実。一般的にいう「ゴマ」とは種子の部分のこと。

病気に強い品種の交雑から、両方の良い部分をあわせ持つ品種を作り出した。さらに改良して健康機能性も高い品種をも作り出すことができる。それぞれの品種の良い特性にかかわる遺伝子が明らかとなれば、品種改良も容易となる。「一つの遺伝子を変えると機能もがらりと変わる世界。理論だけではない、DNAという小さな材料から無限に広がるフィールドに、研究の面白さと手応えを感じています」。

近年、山本講師はゴマの品種改良に挑戦し続けている。4名の先生と共同で、毎年200系統のゴマを育成し、ゴマ遺伝資源の種子を更新するとともに、さまざまな系統を交雑して、6〜9月までの間、実験栽培に取り組んでいる。組み合わせによっては、高い機能性をもつ「富山産の最強ゴマ」の誕生が見られるかも知れない。一粒のゴマもつ大きなパワー。今後の研究成果に期待したい。

名古屋大学在学時から地理学が専門。現在の研究テーマは、子どもの地理学、まちづくり、地理教育、災害・防災学習と幅広い。常にフィールドを重視し、自治体や地域住民とともに「安心安全マップ」「防災マップ」を作成するなど。地域社会における功績も多い。

地理学の中でも、人々の空間的行動や、空間に対する行動、空間に対する認識を研究。空間の中に現れる痕跡から、人々の行動やものの考え方を丁寧に紐解いていくのが大西流だ。

学生時代には、子どもの地域認識の仕方が成長によってどのように変化するかを研究した。子どもたちがどのようなところで遊んでいるのか、それが

地域との関わりでどう変化するのが調査した。外遊びの減少や、自分の暮らしているまちがどんなところなのかさえ分からなくなっていること、地域とふれあう機会がないことなどが浮かび上がった。このことから、子どもたちが大人になった時の地域社会に危機感を覚え、研究領域を「まちづくり」に広げていったという。

まちとは「人々がふれあう場」

専門店や老舗が軒を連ねる富山市の中心地・総曲輪。2011年7月、通りにあつた空き店舗を改装し、「富山まちなか研究室」がオープンした。まちなかの活性化を目的とした大学生やまちづくり団体の活動拠点である。富山大学では地域貢献活動の一環として「富山まちなか研究室」運営に協力。専門家である大西准教授が学生の人材育成や賑わい創出など多様な面から、富大生と地域の人々をつなぐコーディネートを務めている。

「交流拠点は人と人との接点をつくり、それぞれのフィールドで活動している人々を呼び出す装置のようなもの。学生にはまちを感じ、まちの人には学生を受け入れてほしい」。また、商店街にはキャンペーンで学べない宝が豊富にあることを強調。「生きた就活」が実践できる場。いろいろな商売、職業家族、生き方に触れ、柔軟な価値観を



富山まちなか研究室の外装内装は芸術文化学部の学生が担当。就活セミナーや着付け&ヘアメイクのワークショップなど多彩なイベントが行われている。



人文学部 准教授
大西宏治
おおにし・こうじ

地理学的手法で空間的行動や認識を分析

行動の地理的研究を地域活性化に活かす

学ぶことができます」。

放課後に学生が商店街の子どもたちに勉強を教える「まちなか塾」は好評。夏休みには経済学部の学生が地元の牧場とタイアップしてジェラートを販売した。11月には「まちづくりシンポジウム」を開催し、盛り上がりを見せた。4月からははいよいよ公募事業「まちなかコンペ」が始まる。夏休みにはまちなか活性化のアイディアをプレゼンテーションしてもらおう予定だ。

Tom's History

富山医科薬科大学校歌

(平成7年—平成17年)

“立山の揺るる白百合
尊かる生命の清く
歎びも痛みも分かち合い
まことなる 医療の人に育たんと
いま誓い合う 理性のこころ”(一番歌詞)

富山医科薬科大学校歌は、平成7年10月、富山医科薬科大学開学20周年記念式典で初披露されました。歌詞は全国公募され、当時薬学部3年生だった佐藤瑞恵さんの歌詞が選ばれました。一番の歌詞「白百合」には、本学に御献体下さった方の感謝の気持ち、「しらゆり会」の方々の尊いご意思への感謝の気持ち、「雷鳴」には、冬の雷「ぶりおこし」のエネルギーに学生の力強さを、三番の歌詞「古き文献」には、温故知新の心意気で伝統の知恵を生かして新しい医薬品の開発を目指す希望が、それぞれ込められています。曲は、「夏の思い出」「雪の降るまちを」等の楽曲を生んだ作曲家、中田喜直氏によるものです。

入学式や卒業式で歌い継がれてきましたが、平成17年の3大学統合により、わずか10年でその役目を終えました。凛とした若い意志と富山のきらめく自然とを見事に調和させた美しい旧校歌は、富山大学薬学部同窓会のウェブサイトでも聴くことができます。



和漢医薬学総合研究所
准教授 東田千尋

TOM'S 薬箱

知っておきたい脳梗塞のメカニズムと予防… 抗血小板薬シロスタゾール

脳梗塞は日本における3大死因の一つであり、寝たきりである患者の約3割が脳梗塞からの患者で、高齢社会となった日本において、福祉という観点からも課題がある疾患の一つです。

脳梗塞とは、脳の血管が詰まることによって、その先の細胞に栄養が届かなくなって、脳細胞が死んでしまう病気です。原因として血小板が血管の中で凝集する「血栓形成」が知られており、この血栓を溶解する薬が脳梗塞に効くと言われています。

1974年当時、日本では、血小板の凝集を阻害する薬物としてアスピリン、スルフィンピラゾン、ジピリダモールが知られていました。今回紹介

するシロスタゾールは、それらよりも作用が強い薬を作ろうというコンセプトで開発されました。現在ではプレタールという名前で市場に出ています。

血小板が凝集しようとする際にはいくつかのルートがあり、その一つに細胞内のカルシウムイオン(Ca²⁺)の濃度が上昇するというルートがあります。シロスタゾールは、血小板が凝集しないようにCa²⁺の濃度が上昇するのを抑える働きがあります。

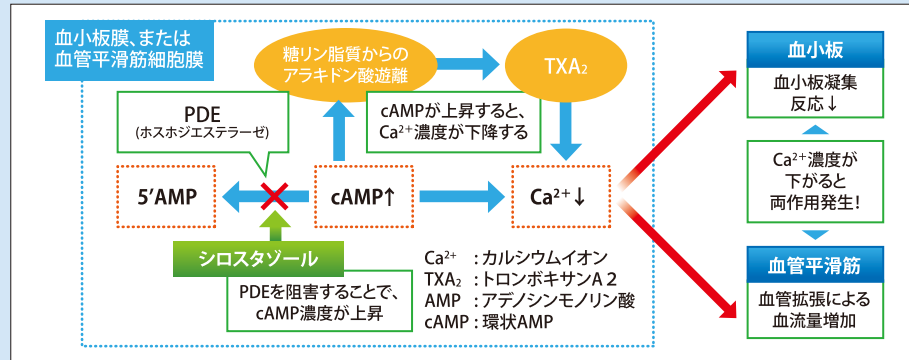
また、血管を上げたり縮めたりする血管平滑筋にも作用

します。Ca²⁺の濃度が下がることで血管平滑筋が血管を拡張し、血流量が増加します。シロスタゾールは他の血液凝集阻害剤にないこの作用を持つことから、動脈が詰まる病気に基づく潰瘍・疼痛・冷感などの諸症状を改善する薬としても用いられています。

ただ注意すべき点があります。それは他の薬物との相互作用が多いという点です。そのため、薬の説明書をしっかりと読んで、ほかの薬との併用を注意しながら使用しないといけません。脳梗塞の再発を予防できるからと言って薬を乱用することは、逆に自分の体を痛めつけることになります。シロスタゾールにも頭痛、動悸といった副作用が生じますし、それは体内の血管破損のサインになります。それらのサインを無視してしまうと、例えば頭蓋内出血や肺出血といった重篤な副作用に発展してしまいます。医師と相談しながら正しく服用することが大切です。

富山大学薬学部薬学科3年
三水寛之

*この説明文は、平成23年度富山大学薬学部3年次総合薬学演習において、調査・発表された内容を一部抜粋し要約したものです。



HELLO

ハロー先輩

「考える力」を培った 学生生活

将来の分岐点になる高校3年生、自分がどんな仕事に就きたいかを考えた時に、昔からのつくりの興味があった私は、様々な生産、加工につながる機械知能システム工学科を志望しました。入学して3年間は基礎的な知識を身につける日々で、勉学へのモチベーションも徐々に下がっていききました。しかし大学4年生になり、自らの研究テーマを持ち、研究を進めていく楽しみを感じるようになりました。そして大学院への進学を決定し、さらに2年間研究を行ないました。自分の思う結果が得られない時には、先生や先輩、後輩のアドバイスを積極的に取り入れ、研究を進めることができました。今でもそのアドバイスは自分の大きな財産になっています。

大学院を修了し、現在はプラスチック部品メーカーで働いています。仕事では、金型を用いて車や携帯電話、パソコン等に用いられる汎用プラスチック製品を成形しています。より良い製品を生み出すため、出来上がった製品や金型の厳しいチェックにも携わっています。自分の判断が非常に重要になってくる仕事ですが、学生生活で培った「考える力」をもとに、様々な人と意見交換しながら良い製品を作り、量産につなげ、私生活の中で自社の製品を見ることが大きな達成感と嬉しさを感じます。



細川 絵理
ほそかわ えり

株式会社博報堂アイ・スタジオ
第3制作グループ アシスタントデザイナー
平成23年3月 芸術文化学部卒業



坂本 祐輔
さかもと ゆうすけ

株式会社タカギセイコー 新湊金型工場生産設計課
平成22年3月 大学院理工学教育部修士課程修了

Tom's Gallery

トムズギャラリー

「芸術ギャラリー企画」
「それゆけ、図工女子！」 in 渋谷。パルコ



03



01



04



02

- 01 会場風景(渋谷パルコ once A month)
- 02 むいぐるみ刺繍(1年 岸田千花)
- 03 革小物(2年 榎原万葉)
- 04 お手製ズック(芸術ギャラリースタッフ 大館佳奈)

※01 02 04 写真提供: 羽田純
※学生の学年は 2012 年 2 月時点

(芸術化学部 助教 長岡大樹)

「芸術ギャラリー」は、芸術化学部・高岡市・末広開発株式会社で運営する展示スペースです。ギャラリースタッフ代表の羽田純を中心にさまざまな展示企画を行っています。企画のひとつ「それゆけ、図工女子!」では、代表の羽田が個性的でハイレベルな若手女性作家・学生を選定し、モノ作り系ガールズユニット「図工女子」としてプロデュースしています。芸術ギャラリーでの展示が好評につき、2012年2月、渋谷パルコ・ギャラリーシヨップ「once A month」にて展示販売を行いました。

編集後記

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。この春より一人暮らしを始めた方は大学生活がスタートしたことを日々の生活で実感していることと思います。高校とは幾分異なる大学の授業に新鮮さを感じている方もいると思います。また、取得単位を個人で把握しながら卒業に必要な単位と科目数を揃えていくことに高校時代との違いを感じている方もいるでしょう。大学生になって初めて経験する出来事は多く、新生活に慣れるのは大変だと思いますが、早い時期から卒業後についても考えておく必要があります。本号では、卒業生からの学生生活の過ごし方のアドバイスを紹介しました。また、皆様の学生生活をサポートする学内の施設やサービス、就職支援も取り上げました。本号が大学での生活に役立ち、皆様が実り多い学生生活を過ごされることを願っております。(岩坪 美兼)

トムズプレス専門部会

岩坪 美兼 大学院理工学研究部教授
黒川 光流 人文学部准教授
廣瀬 豊 大学院医学薬学研究部准教授
松田 恒平 大学院理工学研究部教授
東田 千尋 和漢医薬学総合研究所准教授

- 本誌は、富山大学構内などで無料配布しています。郵送をご希望の方は、住所・氏名・年齢・性別・職業を明記の上、メールまたははがきでお申し込みください。
- 本誌は、年4回、3ヶ月毎に発行します。ご意見、ご要望を是非お聞かせください。



発行日 平成24年3月30日
発行 国立大学法人富山大学
問合せ先 富山大学総務部広報グループ
〒930-8555 富山市五福3190 TEL076-445-6028 FAX076-445-6063
E-mail kouhou@u-toyama.ac.jp

Tom's Press はインターネットでもご覧いただけます。 <http://www.u-toyama.ac.jp/>